

環境活動レポート

2009年度版

(対象期間：2009年4月～2010年3月)

2010年5月15日作成

株式会社 千葉環境ビジネス

代表取締役	環境管理責任者
	



■地球を守る「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 大森 悌次

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

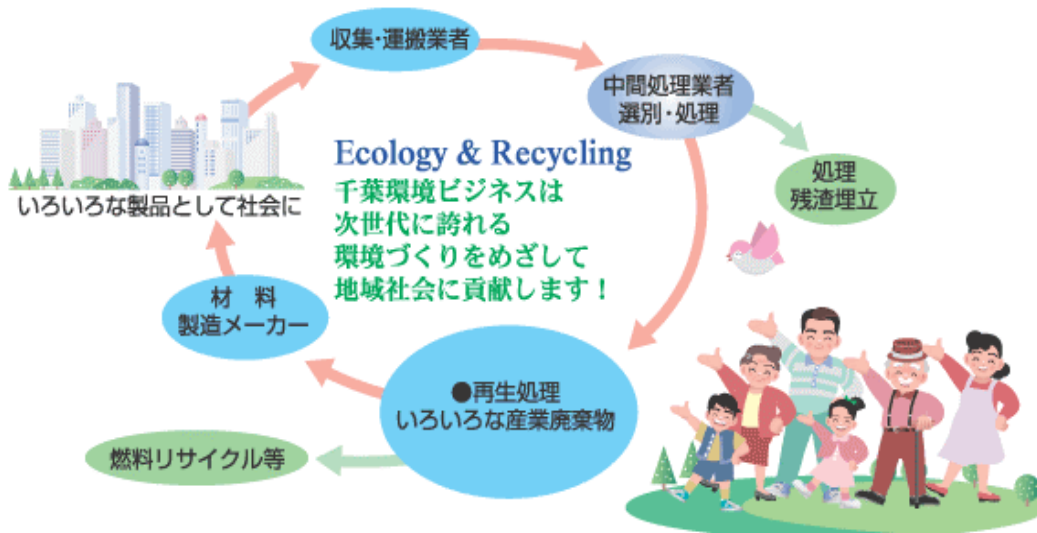
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破碎・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事に邁進して行きます。



1.環境方針

企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。

これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、以下の環境目標に取り組めます。

行動指針

1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を順守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法を改善し、リサイクルを促進します。
3. 選別作業の改善によりリサイクル品質を向上し、廃棄物の削減を計ります。
4. **省エネの実践により、2 酸化炭素ガスの排出を抑制します。**
5. 雨水の利用により、水使用量の削減を計ります。
6. 環境経営システムを活用し、優良制評価事業者適合を目指します。
7. 環境方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

2007 年 8 月 21 日制定

株式会社 千葉環境ビジネス

大森 悌次

2.組織の概要

・名 称	株式会社千葉環境ビジネス
・代 表 者	大森 悌次
・設立年月日	平成 8 年 4 月 18 日
・資 本 金	1,000 万円
・所 在 地	本社： 千葉市若葉区中野町 1691 番地 7 中間処理施設： 千葉市若葉区中野町 1691 番地 7、9
・環境管理責任者	飯島 伸行
・担当者連絡先（電話・メール）	壁 明彦 （043-307-0080、info@chibakankyo.co.jp）
・ホームページの URL	http://www.chibakankyo.co.jp

3. 事業の規模

年 度	2007	2008 年度	2009 年度
廃棄物処理量 (t)	9,478	22,972	38,433
売上高(百万円)	592	938	1,100(目標)
従業員	25	25	23
延べ床面積 (平方メートル)	4,800 m ²	4,800 m ²	4,800 m ²
用途地域	市街化調整区域		

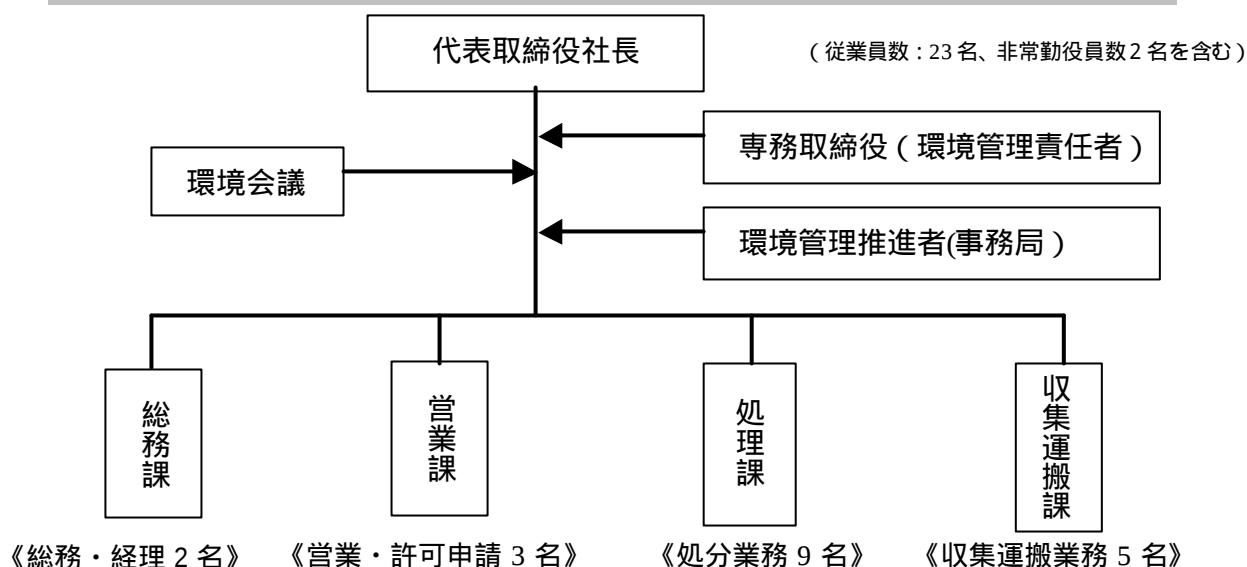
4. 事業計画の概要

千葉県、千葉市及び関東近郊の産業廃棄物の収集・運搬と、再資源化のための中間処理を生業としている。

(主な事業内容)

- ・産業廃棄物中間処理業
- ・産業廃棄物収集・運搬業
- ・特別管理産業廃棄物収集・運搬業
- ・金属くず・古紙及びプラスチック類のリサイクル業
- ・鉄鋼及び非鉄金属類の売買業

5. 組 織 図



<役割・責任>

社長：環境方針の決定。社長による EA21 活動の見直し。必要な経営資源の投入
 環境管理責任者：環境経営システムの確立・実施・維持。社長見直し時に状況報告
 環境管理推進者：事務局、EA21 活動及び結果の報告

6. 行政許認可一覧

	都道府県名 政令市名	許可番号	許可日	許可期限	産業廃棄物の種類																				
					燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	動植物性残渣	金属くず	ガラス・陶磁器	がれき類	ばいじん	鉱さい	廃石綿等 (特別管理のみ)				
	産業廃棄物処分業許可				取扱産業廃棄物の種類																				
1	千葉市 (中間処分)	第5520041256号	H20.9.17	H25.8.11							○	○	○	○	○		○	○	○						
	産業廃棄物収集運搬許可				取扱産業廃棄物の種類																				
2	千葉市	第5510041256号	H18.7.29	H23.7.28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
3	千葉県	第1200041256号	H18.7.24	H23.7.23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
4	船橋市	第10400041256号	H18.7.24	H23.7.23	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
5	東京都	第1300041256号	H17.12.8	H22.12.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○				
6	神奈川県	第1403041256号	H19.4.19	H24.3.31	○	○				○	○	○	○				○	○	○	○					
7	横浜市	第5600041256号	H20.11.1	H25.10.31		○				○	○	○					○	○	○						
8	川崎市	第5700041256号	H20.11.1	H25.10.31		○				○	○	○					○	○	○						
9	相模原市	第09800041256号	H18.9.3	H23.9.2						○	○	○	○				○	○	○						
10	横須賀市	第5802041256号	H21.3.15	H26.3.14		○				○	○	○					○	○	○						
11	埼玉県	第1107041256号	H18.10.16	H23.10.15		○	○			○	○	○	○				○	○	○						
12	さいたま市	第10100041256号	H18.10.16	H23.10.15		○	○			○	○	○	○				○	○	○						
13	川越市	第10300041256号	H18.10.24	H23.10.15		○	○			○	○	○	○				○	○	○						
14	茨城県	第0801041256号	H18.10.11	H23.10.10		○	○			○	○	○	○				○	○	○						
15	群馬県	第1000041256号	H21.10.19	H26.10.18						○	○	○	○				○	○	○	○					
16	前橋市	第11400041256号	H21.10.19	H26.10.18						○	○	○	○				○	○	○	○					
17	栃木県	第0900041256号	H18.9.26	H23.9.25	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○				
18	宇都宮市	第8400041256号	H18.9.1	H23.8.31	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○				
19	山梨県	第1900041256号	H16.11.5	H26.11.4		○				○		○					○	○	○						
20	静岡県	第2201041256号	H21.10.8	H26.10.7						○							○	○	○						
	特別管理産業廃棄物収集運搬許可				特別管理産業廃棄物の種類																				
1	千葉市	第5550041256号	H18.7.9	H23.7.8			○	○	○													○			
2	千葉県	第1250041256号	H18.7.18	H23.7.17			○	○	○													○			
3	船橋市	第10450041256号	H18.7.18	H23.7.17				○																	
4	横浜市	第5650041256号	H19.3.1	H24.2.29			○	○	○													○			
	再生事業者登録				廃棄物の種類																				
	千葉県	第135号	H18.11.1								○						○								
	解体工事業者登録																								
	千葉県	第0182号	H18.12.19	H23.12.18																					
	古物商																								
	千葉県公安委員会 第441400000976号		H18.5.19																						

7. 環境保全技術に関する資格保有状況

〔7-1〕. 環境保全技術に関する資格取得状況

収集・運搬に関する資格取得状況

・安全運転管理者	1 名
・大型自動車第 1 種	4 名
・大型自動車第 2 種	1 名
・小型移動式クレーン	2 名
・玉 掛	1 名

処分施設に関する資格取得状況

・車両系建設機械（整地）	7 名
・車両系建設機械（解体）	1 名
・フォークリフト技能	3 名
・危険物乙種第 4 類	3 名

〔7-2〕. 産業廃棄物の処理に係る講習会修了者

産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習
（特別管理産業廃棄物収集・運搬課程）

財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

平成 18 年 3 月 11 日 第 405158062 号 1 名

産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習
（特別管理産業廃棄物処分課程）

財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

平成 18 年 3 月 8 日 第 305152041 号 1 名

8. 廃棄物処理施設・収集運搬等の状況

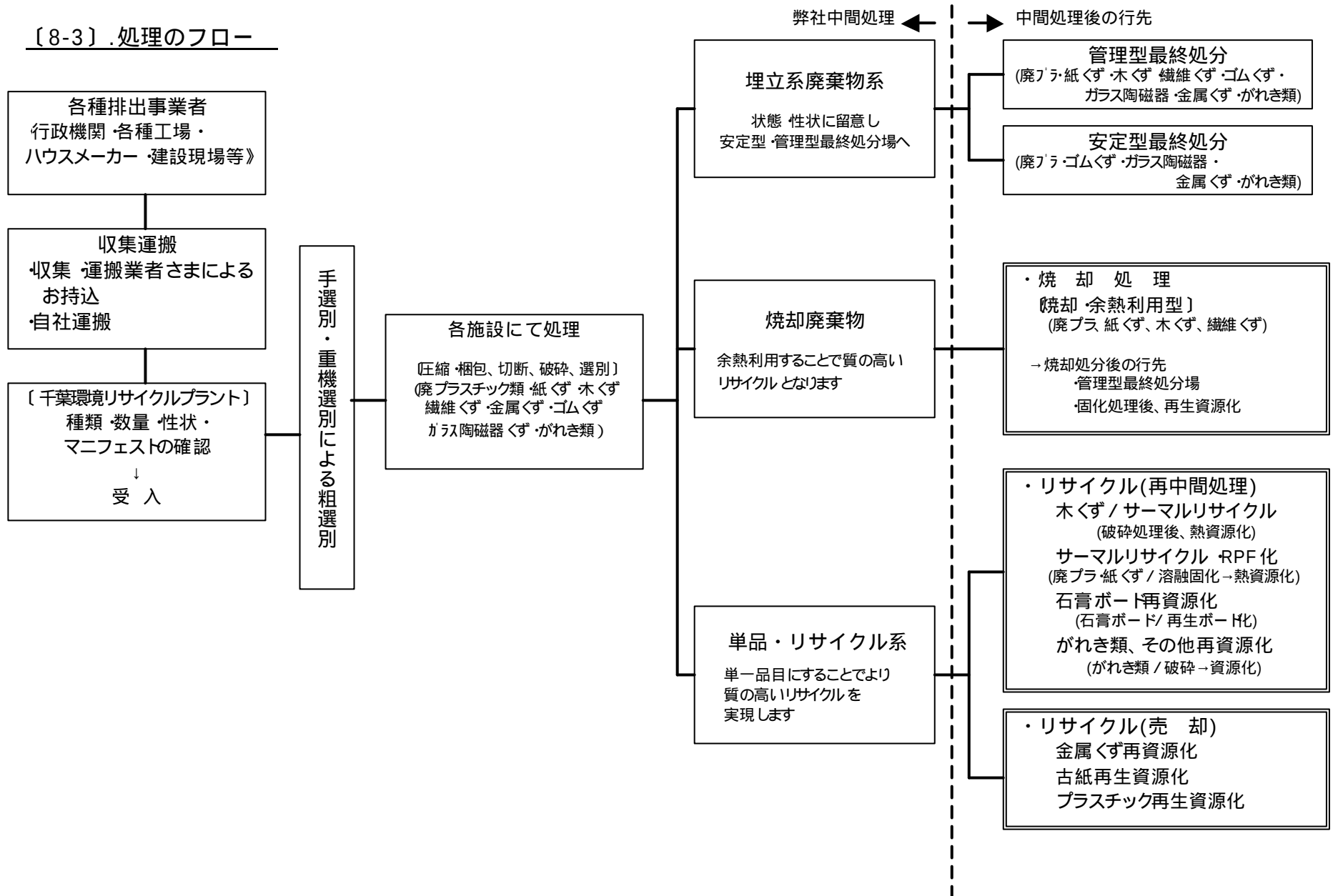
〔8-1〕. 処分施設

施設の種類（設置年月日）	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包 (H15.7/4) (H18.3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 繊維くず ゴムくず	5.34t/日 22.24t/日 69.92t/日 22.48t/日 25.20t/日 3.58t/日 2.96t/日	1
切断施設 (H18.3/20) (H19.3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず ゴムくず 金属くず	3.58t/日 4.92t/日 3.58t/日 3.60t/日 4.32t/日 3.20t/日	1
破砕施設 (H19.3/12)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	2.48t/日 2.96t/日 1.92t/日	1
選別施設 (H18.3/20)	がれき類	137.2t/日	2
選別施設 (H19.3/12) (H20.8.20 ふるい機の変更)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	134.4t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691 番地の 7、1691 番地の 9			

〔8-2〕.保管施設

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
がれき類	36.83 m ²	1.40m	40.19 ?	1
廃プラスチック類	36.83 m ²	1.40m	40.19 ?	2
木くず	36.83 m ²	1.40m	40.19 ?	2
金属くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 ?	1
ガラス、コンクリート及び陶磁器くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 ?	1
(中間処理後残渣物) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、金属くず、ガラスコンクリ陶 磁器くず、がれき類	47.45 m ²	2.50m	72.85 ?	2
(中間処理後残渣物) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず	69.55 m ²	2.50m	106.79 ?	1
(中間処理後残渣物) 廃プラスチック類、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	63.70 m ²	2.50m	97.80 ?	1
紙くず	7.99 m ²	- m	8.2 ?	1
ゴムくず	7.99 m ²	- m	8.2 ?	1
繊維くず	7.99 m ²	- m	8.2 ?	1
廃プラスチック類	7.99 m ²	- m	8.2 ?	1
(中間処理前廃棄物) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、金属くず、ガラスコンクリ陶 磁器くず、がれき類	7.99 m ²	- m	8.2 ?	3
(中間処理前廃棄物) 廃プラスチック類	7.99 m ²	- m	8.2 ?	1
(中間処理前廃棄物) ガラス・コンクリート及び陶磁器くず	7.99 m ²	- m	8.2 ?	2
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691 番地の 7、1691 番地の 9				

〔8-3〕.処理のフロー



〔8-4〕.収集運搬許可関係

8-4-1.産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

車両の形式	最大積載量	保有台数
脱着装置付コンテナ専用車	3,750 kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,800kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,850kg	3
脱着装置付コンテナ専用車	8,200kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000kg	1
キャブオーバ（クレーン付）	2,850kg	1
キャブオーバ	2,000 kg	1
ダンプ	2,000kg	1
塵芥車	2,150kg	1

合計車両台数 11 台

収集運搬登録車両の変更届出

業務実態と精査した結果、余剰車両と判断した塵芥車を 2 台から 1 台に減車。
（平成 22 年 3 月 23 日届出）

4-2.積替・保管施設

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
汚泥 + 金属くず ^a (廃乾電池類に限る)	0.196 m ²	0.9m	0.176 ?	5

保管施設の変更届出

作業実態に合わせて、積替保管施設を、中間処分場保管施設に変更。
（平成 20 年 8 月 20 日届出）

〔 8-5 〕 中間処理実績（ 2009 年度： 2009.4.1 ～ 2010.3.31 ）

収集・運搬量	6322.0 t
中間処理量	20011.0 t
合 計	26333.0 t

< 受託した廃棄物の処理量 >

（単位： t ）

収集運搬量	混合廃棄物	5418.7
	紙くず	28.4
	木くず	89.9
	繊維くず	0
	ゴムくず	0
	金属くず	90.8
	ガラスくずコンクリートくず陶磁器くず	403.7
	がれき類	184.4
	燃 殻	59.8
	鋳さい	16.5
	蛍光灯	0.1
	乾電池（金属 + 汚泥）	0
	廃バッテリー	3.8
	廃油	8.5
	廃石綿（非飛散性）	17.5
	収集運搬量合計	6322.0
中間処理量	廃プラスチック（混合）	14178.8
	紙くず	196.4
	木くず	860.5
	繊維くず	0
	ゴムくず	29.3
	金属くず	145.6
	ガラスくずコンクリートくず陶磁器くず	3818.2
	がれき類	782.0
	中間処理合計	20011.0
再資源化量	木くず	1611.4
	ガラス・陶磁器（石膏）	814.4
	紙、木、繊維	3924.0
	プラ類	147.9
	がれき類	8862.5
	紙	400.3
	金属	276.0
	再資源化合計	16036.5
処理後の 廃棄物	管理型処分場委託量	212.0
	安定型処分場委託量	1228.8
	中間処理後処分量合計	1440.7

中間処理量と再資源化量の相違は、容積量を重量換算する時の換算係数の違いによる

〔8-6〕廃棄物処理料金

- ・ 処分料金提示方法
産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。
- ・ 処分料金算定方法
いずれも見積無料です。
弊社営業担当までお問合せください。（TEL：043 - 307 - 0080）
ホームページよりお問合せ
下記の弊社ホームページに“お問い合わせ”のページを用意しております。
- ・ 施設見学のご案内（ご予約方法）
事前の予約をお願いいたします。
弊社営業担当までご連絡ください。（TEL：043 - 307 - 0080）
下記の弊社ホームページに“見学のご案内”ページがございます。
- ・ 弊社ホームページのご案内
<http://www.chibakankyo.co.jp>

～是非ご利用くださいませ。

9. 環境目標と実績（中期：2007～2009 年度）

〔9-1〕環境目標 ＊2006 年度実績を基準に 2009 年度末までの目標（2009 年 4 月時点）

区分	項目	基準値(2006 年)	2008 年度目標	2009 年度目標	2010 年度目標
二酸化炭素の削減	二酸化炭素削減	目標	10%	+11%	+11%
		(543,542kg-co2)	489,188	605,247	605,247
	社有車の軽油使用量の削減	目標	10%	+ 8 (修正)	+ 8 (修正)
			162,348	195,387	195,387
		2006 年度実績 (180,387L)	エコドライブ実践 アイドリングストップ ノロドライブ実践 エコカーへの切替	エコドライブ実践 アイドリングストップ ノロドライブ実践 エコカーへの切替	エコドライブ実践 アイドリングストップ ノロドライブ実践 エコカーへの切替
			10%	+ 20% (修正)	+ 20% (修正)
	電気使用量の削減	目標	27,321	36,457	36,457
		2006 年度実績 (30,357kwh)	節電活動徹底 グリーン製品・機器への切替 エアコン省エネ設定運転 クールビズ・ウォームビズの展開	節電活動徹底 グリーン製品・機器への切替 エアコン省エネ設定運転 クールビズ・ウォームビズの展開	節電活動徹底 グリーン製品・機器への切替 エアコン省エネ設定運転 クールビズ・ウォームビズの展開
廃棄物の削減	最終処分量の削減	目標	10%	5.1倍	5.1倍
			587	3,317	3,317
	リサイクル (再資源化量) の拡大	2006 年度実績 (652t)	新作業手順の確認と改善	新作業手順の確認と改善	新作業手順の確認と改善
		目標	+ 20%	+ 30%	+ 30%
			3,703	4,012	4,012
		2006 年度実績 (3,086t)	排出事業者への分別提案 PR紙、環境活動レポートの配付 リサイクルネットの整備・拡充	排出事業者への分別提案 PR紙、環境活動レポートの配付 新規獲得顧客の分析と改善	排出事業者への分別提案 PR紙、環境活動レポートの配付 新規獲得顧客の分析と改善
水資源排水	地下水使用量の削減	管理点	維持管理	維持管理	維持管理
		現状維持 (水量計未設置)	浸透マスの整備 雨水の利用による地下水の節水 洗車水、散水の節約	浸透マスの整備 雨水の利用による地下水の節水 洗車水、散水の節約	浸透マスの整備 雨水の利用による地下水の節水 洗車水、散水の節約
その他	省資源・省エネ活動の推進	進捗率	20%	40%	60%
		優良性評価事業者適合	システム改善 環境活動報告書作成(省資源・省エネ活動結果の公表) web掲載・公表	システム構築・教育・運用展開	優良性評価事業者適合の公表

〔 9 - 2 〕 環境目標の設定根拠 (2007 年度設定時根拠)

1. エコアクション 21 導入に伴う、前年度の「環境への負荷状況」を把握した結果、廃棄物の収集運搬車両の軽油使用が、総エネルギー投入量全体の 85.5%、温室効果ガス全体では 87.1% を占め、燃費向上等の目標を取り上げ、総エネルギー投入量、二酸化炭素排出量の削減に取り組む。
2. 主に本社事務所で使用の電気は、総エネルギー投入量全体の 3.7%、温室効果ガス全体では 2.1% であるが、従業員のエコマインド向上も兼ねて、エアコン・OA 機器の省エネ運転使用等に取り組み、電気の使用量の削減を掲げた。
3. 中間処理後の最終処分委託量の削減は、処分場の逼迫を加速させる他、当社の経費の面でも重要であるため、最終処分量の削減を目標に掲げた。
4. 課題である最終処分量の削減と受入量の向上を兼ね、排出事業者への提案活動等によりリサイクルの推進を計る。
5. 地下水の使用は定額払いの現状のため、使用量の把握は計測できない。
ただし、洗車水や散水の節約等、水の使用量削減を計る。
6. 環境経営システムの構築・運用に関わる取組みが課題であり、又、優良品評価適合への目標もあり、エコアクション21環境経営システムを活用して環境保全のための仕組み・体制の整備、環境教育、環境保全活動の推進、情報提供、社会貢献等に取り組む。
7. 流量計未設置につき、地下水流量の把握が出来ないため、地下水使用チェックリストを作成の上統計を取ってみる。

〔 9 - 3 〕 環境目標実績 (活動期間：2009 年 4 月～2010 年 3 月期での実績評価)

区分	項目	2008 年実績値	2009 年度目標 (2008 年度修正目標値)	2009 年度実績	結果
一酸化炭素の削減	社有車の軽油使用量の削減	217,097L	2008 年度実績比 10%削減 (195,387 L 以下)	15% 削減成功 (166,201 L)	○
	電気使用量の削減	38,376 kwh	2008 年度実績比 5%削減 (36,457kWh 以下)	5% 増加 (38,433 kWh)	× (*)
	温室効果ガスの削減	623,966kg-co2	2008 年度実績比 3%削減 (605,247kg-co2)	20 %削減成功 (480,054 kg-co2)	○
廃棄物の削減	最終処分量の削減	3,687t	2008 年度実績比 10%削減 (3,317 トン以下)	56 %削減成功 (1440.7 トン)	
	リサイクルの拡大	31,173t	2008 年度実績比 100%維持 (4,012 トン以上)	519 %増加 (16036.5 トン)	
源水	地下水使用量の削減	維持管理	実績維持活動	維持管理 浸透ます改築	
他	省資源・省エネ活動の推進	優良品評価事業者適合	システム構築・教育・運用展開	適合に向けた活動展開中	○

(*) 未達成項目に関しては〔 9 - 6 : 考察〕の項にて説明

〔 9 - 4 〕 環境目標の取組施策の結果 （ 2009 単年度 ）

区分	項 目	2009 年度の環境活動の取組施策	評価 (実施状況)
二酸化炭素の削減	社有車の 軽油使用量の削減	エコドライブ教育	○
		アイドリングストップ	○
		燃費管理データ収集	○
		定期点検の徹底	○
		エコカー切替へ推進	(社用車 3 台代替)
	電気使用量の削減	節電告知ラベル貼付	○
		グリーン製品 機器への切替	(PC 購入)
		エアコン省エネ設定運転	○
		パソコン省エネモード継続	○
		クールビズ ウォームビズの展開	○
廃棄物の削減	最終処分量の削減	手分別作業の改善	○
		分別作業の標準化	○
		処分方法の見直し	○
	リサイクルの拡大	排出事業者への分別提案	○
		PR紙、環境活動レポートの配付	○
		リサイクルネット整備 拡充	○
水資源・排水	地下水使用量の削減	浸透マスの整備	○
		雨水利用	○
		洗車水、散水の節約	○
その他	省資源・省エネ活動の推進	継続運用	○
		社内教育	○
		環境活動報告書作成	○
		web掲載・公表	○

＊ その他の達成項目 ＊

1	リサイクルの推進	リサイクル量の増加
2	水資源・排水関係	浸透マスの改築工事
3	社員教育	定期教育によりエコアクションと廃棄物処分業務の認識度を高め、意識の向上を計る
4	排出事業者への提案活動	営業活動の質の向上、受入量の増加

〔 9 - 5 〕 環境活動の取組結果の評価

チェック実地年月		2009.3	2010.3	2009.3	2010.3	取組結果の評価
施 策		チェック結果の点数 (点数 / 満点)		施策実施度合 (%)		
1 . 事業活動へのI/P						コピー機、パソコンの省エネ型への更新が進んだ。 再生製品の購入、節水活動の更なる徹底が必要
	省エネ、新工	38/39	17/20	97.4	85.0	
	省資源	48/56	40/54	85.7	74	
	節水	19/23	16/24	82.6	67	
小 計		105/118	73/98	89.0	74.5	
2 . 事業活動へのO/P						空調温度の適正化、照明の適正管理が進んだ。 工場の破砕機、ふるい機周辺は防音壁の設置により、防音及び初発塵防止に効果を発揮している。 社用車更新時、ハイブリット車を導入した。 工場での分別時の
	CO2抑制	44/44	36/36	100	100	
	廃棄物処理時配慮	46/46	54/54	100	100	
	一廃排出抑制	108/110	95/100	98.2	95	
	収集運搬時配慮	63/66	51/54	95.5	94	
小 計		261/266	236/244	98.1	96.7	
3 . 環境経営システムに関わる項目						EA21活動を通じて必要な活動体制や活動計画が整備できた。 EA21活動の役割分担が明確になった。 EA21活動に対する意義が浸透し、環境意識が向上した。
	仕組み・体制	183/183	58/64	100	91	
	環境教育	35/35	21/22	100	95	
	社会貢献	28/29	16/20	96.6	80	
	環境ビジネス	9/9	4/4	100	100	
小 計		255/256	99/110	99.6	90	
全項目合計		621/640	408/452	97.0	90.3	昨年度より項目（細目）を見直し、より弊社に適合するものに変更した。その結果、実施度合いは多少低下したが、より実態にあった評価になった。

〔 9 - 6 〕 未達成項目の結果についての考察

1. 未達成項目 … CO2 削減のうち “ 電気使用量 ”

2. 2009 年度の経済は、いわゆるリーマンショックによる不況が依然として続いた。一方で政治は民主党が与党第 1 党となり、政権交代を実現し国民は大いに期待する情勢になるが、即効性のある施策がなかなか見えず、政治・経済ともに不安定・不安感な一年となった。

弊社としても顧客の約 60% が建設関係なため、この不況の影響を少しずつ実感していきました。また、今回の不況は過当な価格競争も加わり、異常な様相を呈している。この状況は 2010 年度もすぐには消えそうにない。ただ弊社は、ある程度の価格見直しはするものの、産業廃棄物処理で最も大事な部分と考える “ 安心感 ” を強調し続けました。その結果、受入量は約 10% 下がりましたが顧客のご理解を頂いたため、異常な状況にも冷静に対応し続けております。

3. 受入量の増加のため、環境目標は一部未達成に終わりましたが、受入量トン当たり換算すると、下表のような EA21 活動の効果が得られ、環境面では大きく成長できた一年であったと感じております。

【受入量トン当たり換算した環境目標と実績比較】

未達項目	単位	06 年度実績	09 年度目標値	09 年度実績値	計画達成率 (%)
中間処理量	t / 年	3,086	22,000	20011.0	90.9
軽油原単位	L / 年・受入量	48.2	10.0	9.0	111.0
電気原単位	Kwh / 年・受入量	8.1	2.0	1.5	133.0
CO2 排出原単位	Kg / 年・受入量	145.3	30.0	27.2	110.0
最終処分原単位	t / 年・受入量	0.2	0.2	0.03	666.0

4. 軽油使用量は、2008 年度の教訓から、処分担当課長・乗務員ともに作業の効率化を試行錯誤しておりました。このため特に構内重機の使用燃料の減少を図ることができたことが数字と表れました。一方、収集運搬部門についてはほぼ横ばいで推移しており、エコドライブ教育と運行業務体制を見直したことが効果的でありました。
5. 電気使用量も軽油同様、昨年度の現状維持の目標に対し、5% の増加となりました。ただし、構内処分体制の見直しや事務所の省電力活動と相まって、受入量原単位に換算すると、昨年度より 111% の達成率で収めることが出来ました。この要因として、EA 定期教育による節電の意識向上が寄与したと考えます。
6. 最終処分量も、昨年度の現状維持を目標にしました。この項目は代表者や環境責任者の意志だけではなかなか達成できないで、処分課各員の成果が表れたのでアピールしたいところであります。

〔 9 - 7 〕 2009年度環境目標の修正について

1. 昨年度は一昨年に比して受入量・電気使用量・軽油使用量・CO2 排出量となり、弊社自らハードルを上げた、そんな印象でした。従ってその年を最低水準として、受入量が増大しても、同水準を維持するように努力する、ことが 2009 年の目標としておりました。2010 年度は比較的同水準で維持できたこの成果を、維持は最低限として、少しでも効率を上げれるよう努力する。
2. この為、2009 年度実績を基準に、最大限の削減努力を織り込んで、2010 年度環境目標値を修正する。
3. 最終処分量は、受入廃棄物量にほぼ比例して増加する。しかも受入廃棄物の性状によりばらつきが大きい、排出事業者への協力の呼びかけ、分別の徹底により重点目標として、さらに 2009 年度比 10% 削減に挑戦する。

* 2010 年度：中期目標 *

区分	環境目標	2009 年度実績	2010 年度目標
二酸化炭素削減	社有車の軽油使用量の削減	166,201 リットル	2009 年度実績比 5%削減 (157,894 リットル)
	電気使用量の削減	38,433kWh	2009 年度実績比 100%維持 (38,433Kwh)
	温室効果ガスの削減	480,054kg-co2	2009 年度実績比 3%削減 (465,652kg-co2)
廃棄物の削減	最終処分量の削減	1440.7 トン	2009 年度実績比 10%削減 (1296.6 トン)
	リサイクルの拡大	16036 トン	2009 年度実績 100%維持 (16036 トン)
水資源	地下水使用量の削減	維持管理	実績維持活動
その他	省資源 省エネ活動の推進	適合に向けた活動展開中	システム構築 教育・運用展開

〔 9-8 〕 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの指摘及び訴訟は、過去 3 年ありません。
2. 当社が遵守しなければならない環境関連法規等は次の通りである

・廃棄物処理法	・道路運送車両法
・オフロード法	・道路交通法
・特定家庭用機器再商品化法	・振動規正法
・労働安全衛生法	・騒音規正法
・フロン回収・破壊法	・消 防 法
・千葉市環境保全条例	

10．代表者による見直し

平成 19 年 8 月に環境方針を策定、周知教育等を皮切りに同年 9 月より活動開始。その後順調に運用を重ね、平成 22 年 4 月 10 日に代表者による環境活動全体の見直しを行い、下記の結果となりました。

報告項目	管理責任者からの報告内容	結果
環境経営システム構築	環境への取組結果から EA21 活動前に比し、「環境保全の仕組み・体制の整備」が環境経営システムの運用により評価が一層向上した。	○
環境目標	廃棄物の受入量が増加になったが、昨年度の経験から軽油使用量及び CO2 排出量は目標達成できた。ただし電気使用量はわずかに達成できなかったが、最終処分量の減少など、日々の積み重ねが成果となった	○
環境関連法規制の順守状況	環境関連順法性評価結果から順法性を確認できた。	○
環境教育	教育訓練計画に沿って予定通り実施された	
外部から苦情・要望	○平成22年3月31日現在、環境に関わる苦情・要望等ない。	○
緊急事態	○訓練実施日：平成 21 年 11 月 5 日（木）処理施設内の火災を想定して実施訓練。手順書改定必要なし ○平成 22 年 3 月 31 日時点発生ナシ	○
問題点の是正処置	○問題点是正処置報告書） ～平成 22 年 4 月 1 日電力使用量未達で発行—	○
見直し結果からの指示	○電気使用量が目標値より 5%増加となったが、受入量トンあたりに換算した数字では達成しているため、来年度も現状維持を最低水準とする。	
指示事項の対応	「環境目標」については〔9-7〕項での通りの目標値設定を行った	

変更の必要性の有無	環境方針	変更の必要はない
	環境目標	2009 年度の未達目標は、2010 年度修正目標を立てること
	環境活動計画	無し
	環境経営システム	変更の必要なし